



沖縄のハンドボールは、小学・中学・高校のカテゴリでは全国でもトップレベルにあります。が、私も含め本土にある大学に進学する（大学のハンドボールレベルが高いため）傾向があり、さらに日本代表レベルにある選手はほぼ全員本土の実業団に進みます。私も大学卒業当時は琉球コラソンが存在していなかったこともあり、広島にある実業団に進みました。その後、地元沖縄に琉球コラソンというチームができ、父親がチーム監督をしているということや一競技者としても一つ上のレベルを目指したい、うちなーんちゅという気持ちが強くなり、昨年沖縄に帰って来ました。

のギャップがありすぎて正直慣れるまでに時間がかかりました。以前のチームは、ハンドボールができて当たり前の環境があり、プレーオフ常連の強豪チームでした。しかしコラソンは違います。どこで練習できるかその日にしか分からないときもあれば、練習会場が確保できず、無料で使える陸上競技場や公園などで走りのトレーニングを行い、ボールは使わないこともありました。もちろんプレーオフに進出したこともありません。以前のチームに比べ考えられないことだらけでしたが、今シーズンはチームを立ち上げてから5年目という節目の年に入り、チームスタッフ・メンバー全員が「今年はプレーオフに行き優勝する」という目標を掲げていることが分か



琉球コラソンNo.6 東長濱 秀作

Series 31 地域の目 RYUKYU Chiki no Me 琉球魂を持ち 次世代の選手のために

り、自分としてもこのメンバーで最高の気分を分かち合いたいと思えるようになりました。スポーツ界では多くの沖縄県出身選手が活躍していて、沖縄にはプロスポーツチームも3チーム存在します。プロバスケットボールチームの琉球ゴールデンキングス、プロサッカーチームのFC琉球、そしてハンドボールチームの琉球コラソンです。県内では、これらの3つのスポーツの中ではハンドボールの競技人口が一番多い状況にあります。また、ハンドボール日本代表候補の中には県出身選手が多く在籍していて、全国から見てもハンドボールの場合は、うちなーんちゅは重宝されています。県外選手に比べて体は小さいけれど、沖縄の環境が生んだ運動神経の良さや発想など、県外選手より高いレベルにありま

成功すること、本土に出ていく県出身選手たちが沖縄に帰って来れるような環境が作れると思ったからです。また、そういった選手たちが帰って来ること、沖縄のハンドボールのレベルがさらに向上し、子供たちの目標になればと思ったからです。私は、本土にいる県出身選手たちが沖縄に戻って来てコラソンでプレーできるようにするため、架け橋のような存在になれるように頑張っていきたいと思っています。琉球コラソンというチームは他チームと比べ、体格の差はあっても技術の差はあまりありません。試合の勝ち方を知らない、練習においても細かいところが欠けているという点が最初に感じた印象でした。しかし、昔から一緒にプレーしてきたメンバーが多かったこともあり、そういったところを厳しく追求していくことで今シーズンは開幕から結果がついてきていると思います。現在、プレーオフの4位争いで混戦している日本リーグですが、残りの試合すべて勝ち、必ずこのメンバーとファミリア（コラソンを応援してくださっているファン）の皆さんと一緒にプレーオフに行き、最高の瞬間を分かち合いたいと思っています。沖縄を、また琉球コラソンを盛り上げるためにも皆さん応援よろしくお願いします！

「CORAZON（コラソン）」は、スペイン語で「心・ハート・魂」を意味します。琉球 CORAZON のチーム名は、「琉球の心」を持ち、「ハートでプレイする」選手が「観るものすべての魂を熱くする」という想いを込めて名付けられました。琉球コラソンの試合情報等は <http://www.ryukyu-corazon.com/> から御覧になれます。